|  |
| --- |
| 土木学会論文集「特集号（海洋開発）」  和文原稿作成例 |

|  |
| --- |
| 土木　太郎1・四谷　花子2・John SMITH3・名誉　三郎4・  一瀬　次郎5・三宅　花子5・現役　学生6・卒業　豊7 |

|  |
| --- |
| 1正会員　土木コンサルタント（株）技術開発部  （〒160-0001 東京都新宿区一之瀬6-13-5 土木コンサルタント新宿ビル11F）  E-mail: doboku@jsce.co.jp  2フェロー会員　土木大学工学部土木工学科（〒160-0002 東京都新宿区二階堂2-2-2）  E-mail: hanako@jsce.ac.jp (Corresponding Author)  3Member of JSCE, JSCE Corp.  4名誉会員　（一財）○○総合研究所（〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-4）  5正会員　土木建設工業（株）技術開発部（〒160-0005 東京都新宿区五代5-5-5）  6学生会員　土木大学工学部社会基盤学科（〒160-0002 東京都新宿区二階堂2-2-2）  7尾崎建設（株）土木部（〒160-0007 東京都新宿区七尾7-7-7） |

|  |
| --- |
| このファイルは土木学会論文集「特集号（海洋開発）」の原稿（和文）を作成するために必要な，レイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています．それと同時に，原稿そのものの体裁(A4)をとっているため，このファイルの中の文章や図表をこれから書こうとしている実際のものに置き換えれば，所定のフォントや配置の原稿を容易に作成することができます．この作成例に記載されていない事項については，土木学会論文集の通常号の投稿要項に従うものとします．  この要旨を含め，タイトル部分の幅は本文よりも左右1 cmずつ狭くします．要旨のフォントは明朝体9 ptを用いてください．要旨の長さは350 字以内です．要旨の後に１行空けて，キーワードを5つ程度，Times-Italic 10 ptのフォントで書いて下さい（固有名詞以外の頭文字は小文字にしてください）． |

|  |  |
| --- | --- |
| ***Key Words :*** | times, italic, 10 pt, several words, one blank line below abstract, indent if key words exceed one line |

# 用紙サイズと総ページ数

用紙サイズは，A4用紙とします．ページ数は参考文献（NOTESとREFERENCES）および英文情報（タイトル，著者名，アブストラクト）を除いた本文で6 ページ以内を厳守とし，超過は認めません．

本作成例では，1 ページ目をタイトルページ，2 ページ目以降を一般ページ，末尾のページを最終ページと呼びます．

# タイトルページ

タイトルページは，タイトル部分と本文部分から構成されます．

## タイトル部分のレイアウトとフォント

すべてのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺19 mm，下辺24 mm，左右ともに20 mmに設定してください．タイトル部分の左右のマージンは，それぞれ30 mmずつのマージンをとります．そして以下の順にタイトル部分の構成要素を書いて下さい．

タイトル：ゴシック体20 ptフォント，センタリング

　　（約15 mmの鉛直スペース）

著者名：明朝体12 ptフォント，センタリング

　　（約5 mmの鉛直スペース）

著者所属：明朝体9 ptフォント，センタリング

E-mailアドレス：明朝体9 ptフォント，センタリング

　　（約10 mmの鉛直スペース）

アブストラクト：明朝体9 ptフォント

キーワード：Times - Italic, 10 pt，5つ程度，2 行以内

著者と所属とは肩付き数字で対応づけ，上記のように並べて下さい．キーワードは固有名詞以外の頭文字は小文字にしてください．'***Key Words***'という文字はボールドイタリック体にします．

### タイトルに関する留意事項

要旨原稿の受付終了後は，著者都合によるタイトルの変更は認められません．タイトルは1 行に収まるよう簡潔に記入してください．やむを得ず2 行になる場合は，読者の読みやすい位置で改行してください．

また，タイトルには，「○○工法」，「○○システム」などのように，私的な表現，広告，宣伝に類する内容の記述は用いられません．

### 著者に関する留意事項

著者は最大で8 名です．要旨原稿受付時の並び順の通りに記載してください．なお，要旨原稿の受付終了後は，著者の変更及び著者の並び順の変更は認められません．和文著者名と所属とは肩付き数字で対応づけ，上記のように並べてください．役職名は記さないでください．

所属は1 行に収まるよう簡潔に記入してください．やむを得ず2 行になる場合は，読者の読みやすい位置で改行してください．

土木学会における会員の区分は，名誉会員・フェロー会員・正会員・学生会員があります．なお，土木学会の会員でない著者は，非会員とは書きません．本作成例のように，肩付き数字の直後に所属から記入してください．

本特集号はページ数の制約がありますが，本作成例のように，Corresponding AuthorのE-mailアドレスは必須です．連絡の取れるE-mailアドレスを書いてください．また，どなたがCorresponding Authorであるかを明記して下さい．投稿はCorresponding Authorが行い，原稿が審査を経て掲載されるまで責任を持って対応するものとします．

## 本文部分のレイアウトとフォント

本文とキーワードの間に約10 mm（10 ptで2 行分）の鉛直スペースを空けてください．

本文は2段組で，左右のマージンは20 mmずつ，左右の段の間のスペースは約6 mmとします．また，1 段1 行当たりの全角文字数は25 文字，行数は48 行以内とします．

本文には明朝体10 ptフォントを用いて下さい．括弧等も明朝体10 ptフォントとします．たとえば，Microsoft Wordでは，全角文字をMS明朝に設定してください．また，数字と英文フォントにはTimes-New-Roman 10 ptフォントを，ギリシャ文字にはSymbol 10 ptフォントを使用してください．句読点は全角ピリオドと全角カンマを使用してください．また本文の文字は黒色（下線なし）としてください．

## フッタ

最終原稿には事務局によってページ数が挿入されるので，空欄としてください．

# 一般ページ

第2 ページ以降はタイトルページの本文部分と同じレイアウトとフォントで本文を作成します．

## 文章

文章は，口語体を用いて記載してください．特に，英文もしくは片仮名書きを必要とする部分以外は，漢字まじり平仮名書きとしてください．

私的な表現，広告，宣伝に類する内容の記載は避けてください．

## 句読点

文中に使用する句読点は，「，」および「．」を使用し，「、」と「。」は使用しないでください．

## 数字，単位，括弧

単位は，原則として半角英数字とします．

数字は，1 文字なら全角文字，半角文字のいずれを使用してもかまいませんが，原稿中で統一してください．また，2018年，9.8 m/s2等のように1 文字以上続く場合は半角文字とします．なお，数字と単位の間には半角スペースを入れてください．

　括弧は，その中身の文字列と同じにします．

　例：　全角括弧の使用（全角），（10 個）

　　　　半角括弧の使用(9.8 m/s2)

## レイアウトとフォント

　本文は2 段組で，左右のマージンは20 mmずつ，左右の段の間のスペースは約6 mmとします．また，1 段1 行当たりの全角文字数は25 文字，行数は48 行以内とします．

本文には明朝体10 ptフォントを用いて下さい．括弧等も明朝体10 ptフォントとします．たとえば，Microsoft Wordでは，全角文字をMS明朝に設定してください．また，数字と英文フォントにはTimes-New-Roman 10 ptフォントを，ギリシャ文字にはSymbol 10 ptフォントを使用してください．句読点は全角ピリオドと全角カンマを使用してください．また本文の文字は黒色（下線なし）としてください．

## 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい．本文中で説明するか，もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい．

# 見出し（見出しが1行以上に長くなるときはこの例のようにインデントし折り返す）

## 見出しのレベル

見出しのレベルは，章，節，項の3 段階までとします．見出しで用いるフォントの種類は，全角文字の場合にはゴシック体，半角英数字の場合にはArialを使用します．

## 章の見出し

章の見出しは，フォントサイズ12 ptとし，2.などの数字に続けて書きます．また，見出しの上下にスペースを空けます．このファイルのサンプルから分かるように，上を2 行，下を1 行程度空けて下さい．ただしページや段が切り替わる部分は章の見出しが最上部に来るよう調整してください．

## 節の見出し

節の見出しは，フォントサイズ10 ptとし，(4)などの括弧付き数字を付けます．見出しの上だけに1 行程度のスペースを空けて下さい．

### 項の見出し

項の見出しは，フォントサイズ10 ptとし，括弧付きアルファベットを付け，上下には特にスペースを空けません．項より下位の見出しは用いないで下さい．

# 数式および数学記号

式や図に使われる文字，記号，単位記号などは，できるだけ常識的な記号を使い，必要に応じて記号の一覧表を付録としてつけて下さい．数式はできるだけ簡単な形でまとめて，式の展開や誘導の部分を少なくして文章で補って下さい．

式を書く場合には，記号が最初に現われる箇所に記号の定義を文章で表現して使って下さい．また，同一記号を2つ以上の意味で使うことは避けて下さい．

数式や数学記号は，次の式(1a)のように本文と独立している場合でも，，のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成します．たとえば，Wordの数式エディタを使用する場合にはCambria Mathまたは類似のフォントを使用して下さい．数式や数学記号の品質が悪いと版下原稿として受け付けません．

数式はセンタリングし，式番号は括弧書きで右詰めにします．

# 図，表，写真

図-2　図の表題

表-1　表の表題（ケース：とても長い場合－インデントによる折返し－）

|  |
| --- |
| 資料番号　　　 高さ *h* (m) 　　　幅 *w* (m) |
| 1　　　　　1.45　　　　　 0.25  2　　　　　1.75　　　　　 0.40  3　　　　　1.90　　　　　 0.65 |

## 図，表，写真の色・品質

図・写真についてはカラーも可能です．解像度は，モノクロ画像で1200 dpi，カラー／グレースケール画像で300 dpiを推奨します．あまり解像度を大きく設定しますと著しくファイルサイズが大きくなりますのでご注意下さい．

## 図，表，写真の位置

図，表，写真は，それらを最初に引用する文章と同じページに置くことを原則とします．原稿末尾にまとめたりしてはいけません．また，図，表，写真の横幅は，「2 段ぶち抜き」あるいはこのサンプルの表-1や図-2のように「1 段の幅いっぱい」のいずれかとします．図，表，写真の幅を1 段幅以下にして図，表，写真の横に本文テキストを配置することはやめて下さい．図-3から図-5のような「2 段ぶち抜き」に図，表，写真が3 枚以上横に並ぶ配置や，「1 段の幅いっぱい」に図，表，写真が2 枚以上横に並ぶ配置は禁止します．ただし，同様な結果を示す場合のみ図-6のような配置は許可します．

最後に，図，表，写真と文章本体との間には，1～2 行程度の空白を空けて区別を明確にします．

## 図表中の文字

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 図-3　このような配置は禁止 | 図-4　このような配置は禁止 | 図-5　このような配置は禁止 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| (a) ケース1 | (b) ケース2 | (c) ケース3 |

図-6　このような2 段ぶち抜き配置は許可

図表中のフォントの種類は，原稿中でできるだけ統一してください．図，表，写真中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意してください．特に表題の大きさ(9 pt)より小さくならないようにして下さい．

## 図，表，写真の表題

図，表，写真の表題は，フォントサイズ9 ptを使用します．見出し（表-1，図-2）で用いるフォントの種類は，全角文字の場合にはゴシック体，半角英数字の場合にはArialを使用します．見出し以外の表題の部分には，全角文字の場合には明朝体，半角英数字の場合にはTimes-New-Romanを使用して下さい．なお，見出しのハイフンと数字は，半角文字を使用して下さい（正：表-1，誤：表－1）．また，見出しと表題の間は，全角スペースを挿入してください．なお，本文中の引用は，表-1，図-2のように，図表の見出しのフォントを使用しますが，フォントサイズは本文と同様に10 ptとします．

長い表題は表-1のようにインデントして折り返します．ただし，表題は簡潔なものとし，図表等の説明は本文に必ず記述してください．

# 参考文献の引用とリスト

参考文献は，出現順に番号を振り，その引用箇所でこのように1), 2)上付き右括弧付き数字で指示します．また，参考文献のすべてを原稿のREFERENCESにまとめてリストとして示してください．脚注にはしないで下さい．既往研究としての参考文献以外に，根拠資料や史的研究資料としての文献を示す場合，REFERENCESとは別に引用箇所でこのように注1) 上付き文字で指示し，NOTESとしてREFERENCESの前にリストを示してください．

参考文献（REFERENCES）は，著者名，論文名，雑誌名（書名），巻号，ページ，発行年の順に記入して下さい．和文雑誌の場合は続けて [ ] 内に英文を併記してください．英文雑誌の場合は著者名を，姓，イニシャルの順として下さい．著者数が多い場合でも参考文献リストには全ての著者名を記載して下さい．ただし，本文中で引用する場合には，3 名以上の場合に限り，第一著者のみを書き，あとを“ほか”もしくは“et al.”などと省略してかまいません．単行本の場合は，著者名，書名，ページ，発行所，発行年とします．和文単行本の場合は続けて [ ] 内に英文を併記して下さい．英文単行本の場合は，書名は各単語とも頭文字は大文字として下さい．雑誌名，書名はイタリック体にして下さい．

NOTESには本文に対するその他の文末注も含みます．そのためNOTESの書式は，本文に補足すべき十分な情報を含めれば特に規定をしないものとします．

# 原稿受付日および受理日の記載

参考文献の後には，原稿の受付日（アブストラクト投稿日）と受理日（海洋開発委員会幹事会による掲載の可否判定日）を英文太字で記載します．受理日については2019年度より記載することになりましたので，ご注意ください．

各年度の日付については，本作成例に記載されているものをご参照ください．

# 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル，著者名および要旨を横1 段組で書きます．このサンプルにあるように，本文や参考文献リストまでの2 段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし，10 mm程度の空白を入れて英文要旨を配置します．英文タイトルから英文要旨の開始までは同じページに配置します．英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を10 mmずつ狭くします．すなわち，A4用紙の幅に対して左右それぞれ30 mmずつのマージンをとります．そして以下の順に英文要旨の構成要素を書いて下さい．

タイトル：Times-New-Roman 12 ptフォント，センタリング，大文字

　　（12 ptで1 行のスペース）

著者名：Times-New-Roman 12 ptフォント，センタリング，名前・名字の順とし，名前の始めは大文字，名字はすべて大文字として下さい

　　（12 ptで1 行のスペース）

アブストラクト：Times-New-Roman 10 ptフォント，300 words以内

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に1 行のスペースを空けて記述して下さい．見出しとコロンをゴシック体10 ptで書き，その直後から文章を書き出して下さい．

付録　「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「NOTES」の間に置いてください．

**NOTES**

1. 1933（昭和8）年7月20日発都第15号地方長官・都市計画地方委員会長宛内務次官通牒「都市計畫調査資料及計畫標準ニ關スル件」．
2. 街路計画を初めて決定した1947年以降の都市計画資料は高山市に保存されているが，1934年および1936年の初期都市計画に関する理由などを示す計画資料は，管見の限り遺っていないか存在しない．
3. International Town Planning Conference Amsterdam, Part II Report, pp. 55-56, 1924.
4. 庭園協会『庭園』4（3），p. 31，1922.3．
5. 直井佐兵衛「山都高山」（『都市問題』東京市政調査会，第二十四巻，第一号，pp. 63-65，1937.1）．

**REFERENCES**

1. 本間仁，安芸皓一：物部水理学，pp. 430-463，岩波書店，1962. [Honma, M. and Aki, K.: *Mononobe Suirigaku*, pp. 430-463, Iwanami Shoten, 1962.]
2. 日本道路協会：道路橋示方書・同解説IV下部構造編，pp.110-119，1996. [Japan Road Association: *Dorokyoshihosyo & Doukaisetsu* IV Kabukouzo-hen, pp. 110-119, 1996.]
3. Shepard, F. P. and Inman, D. L.: Nearshore water circulation related to bottom topography and wave refraction, *Trans*. *AGU*., Vol. 31, No. 2, 1950.
4. 後藤尚男，亀田弘行：地震時における最大地動の確率論的研究，土木学会論文集，1968巻159号，pp. 1-12，1968. [Goto, H. and Kameda, H.: A statistical study of the maximum ground motion in strong earthquakes, *Transaction of the Japan Society of Civil Engineers*, Vol. 1968, Issue 159, pp. 1-12, 1968.]

**(Received February 6, 2024)**

**(Accepted May 13, 2024)**

|  |
| --- |
| FORMATTING JAPANESE MANUSCRIPT FOR JOURNALS OF JSCE |

|  |
| --- |
| Taro DOBOKU, Hanako YOTSUYA, John SMITH, Saburo MEIYO,  Jiro ICHINOSE, Hanako MIYAKE, Gakusei GENNEKI and Yutaka SOTSUGYO |

|  |
| --- |
| This template is prepared for your preparation of manuscript for JSCE journals. It provides instructions: page layout, font style and size and others. If you replace the relevant text with your own by using “cut & paste,” you can make your manuscript easily. The English ABSTRACT should be justified, leaving a 30 mm margin on the left and right sides. Font should be a 10-point Times-New-Roman. The length should be 300 words or less. It should be placed be-low the title and authors’ names set in 12 pt, spacing a single line. |